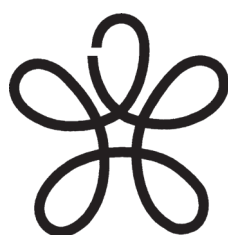


情報学部
履修要項

2026

令和8年度



近畿大学

情報学部 履修要項

目 次

I. 教育方針

1. 近畿大学の「建学の精神」と「教育の目的」	3
2. 情報学部の教育方針	3
3. 履修系統図（カリキュラムツリー・マップ）	6

II. 学修に関する学生生活

1. 学生生活における連絡・情報	7
2. 1年間の流れ	7
3. 学期および授業時間	7
4. 休講と補講	7
5. 気象警報及び台風・地震等による交通機関の運行停止に伴う授業の取り扱い	8
6. 学修上の相談	8

III. 学籍と事務手続き

1. 学籍番号	9
2. 各種変更の届出	9
3. 退学・再入学	9
4. 休学・復学	9
5. 除籍・復籍・処分	9
6. 転学部	10
7. コース選択	10
8. 定期健康診断	10
9. 欠席届	10

IV. 科目の履修と単位の修得

1. 単位	12
2. 科目の履修	12
3. 授業形態について	13
4. 情報学部で取得できる資格に関する単位	14
5. レポート	14
6. 試験	14

7. 定期試験受験の心得.....	15
8. 授業への出席.....	15
9. 成績.....	16
10. GPA (Grade Point Average) 制度.....	16
11. 特待生制度.....	17
12. 生成 AI の利用について.....	17

V. 卒業要件・進級基準・科目表

1. 科目の分類.....	18
2. 卒業要件.....	18
3. 進級基準.....	18
4. 科目表・進級基準・卒業要件.....	20
5. その他の履修・単位認定制度.....	27
(1) 英語科目の単位認定制度.....	27
(2) プログラミング系基礎科目の単位認定制度.....	27
(3) 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）.....	28
(4) 「大学コンソーシアム大阪」単位互換科目.....	28
(5) 海外留学制度.....	28
6. 外国人留学生の履修.....	29

VI. 情報学部に関連の深い各種資格・検定

1. 情報学部で目標とする資格・検定.....	31
2. 教職課程の履修.....	32
3. 司書課程の履修.....	32
4. 各種資格の講座案内.....	32

VII. 主な施設紹介

・ 主な施設紹介.....	33
・ E 館.....	34

I. 教育方針

1. 近畿大学の「建学の精神」と「教育の目的」

近畿大学の建学の精神は「実学教育」と「人格の陶冶」です。この建学の精神を具体的に実践するために「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」を教育の目的に掲げています。この建学の精神と教育の目的に基づいて、「広い教養に裏打ちされた人格とチャレンジ精神をもって未来を志向しつつ、実践的学問すなわち実学の発展に貢献することのできる人材を育成」して、社会に送り出すことに全力で取り組んでいます。

2. 情報学部の教育方針

【ディプロマ・ポリシー】(学位授与の方針)

情報学部では、近畿大学の建学の精神である未来志向の「実学教育と人格の陶冶」に則り、広い視野から課題の核心を的確に把握する洞察力、技術的な課題を解決する専門能力、進歩を続ける情報技術に対応できる柔軟な思考力と創造力を持ち、社会の一員としての責任と自覚を有する情報技術者の育成を目標としています。この趣旨に沿って設定した授業科目を履修し、厳格な成績評価のもとで所定の単位を修得し以下の能力を身に付けた学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与します。

(知識・技能)

- 1.1 数学、自然科学に関する知識を情報分野の課題に応用できる。
- 1.2 情報分野における幅広い専門技術の知識を持ち、それらを課題解決に応用できる。
- 1.3 与えられた条件におけるソフトウェアの設計とプログラミングによる実装を適切に行うことができる。
- 1.4 外国語による国際的なコミュニケーションを行うことができる。

(思考・判断・表現)

- 2.1 多面的に物事を捉え、課題発見および課題解決を行うことができる。
- 2.2 与えられた制約のもとで、計画的かつ柔軟な思考により課題解決へ取り組むことができる。
- 2.3 日本語による明確な記述、発表、討議を通じて他者と効果的にコミュニケーションを図ることができる。

(主体性・意欲・態度)

- 3.1 課題発見と知識修得を自主的・継続的に行うことができる。
- 3.2 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者として責任ある正しい態度で行動することができる。
- 3.3 他者との共同・協働活動に関与し、主体的に課題解決を図ることができる。

【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針)

情報学部では、ディプロマ・ポリシーに定める学修成果の目標達成に向けて、以下に示す科目群に分け、カリキュラムを提供します。効率のかつ効果的な学修のために、メディア授業を積極

的に取り入れていることが大きな特色です。各授業科目とディプロマ・ポリシーの対応の詳細はカリキュラムマップで、カリキュラムの順次性についてはカリキュラムツリーで別途示します。また、学修成果の達成度については、各授業科目はシラバスに掲げる評価方法により評価し、卒業時の学修成果は別に定めるアセスメントプランで示す方法によって評価を行います。

<共通教養科目>

ディプロマ・ポリシー2.1、2.3、3.1、3.2の到達を主目的として、1～2年次での履修を想定した共通教養科目を設定します。初年次教育では、必修科目の「近大ゼミ」「情報学入門ゼミナール」において、本学や本学部の内容について深く知る機会や、学生同士で学び合う機会や、今後のキャリアについて考える機会などを得て、大学生活において知識修得を自主的・継続的に行う動機づけとし、ディプロマ・ポリシー3.1に定める能力の修得を図ります。

また、「暮らしのなかの憲法」「住みよい社会と福祉」「現代社会と法」「環境と社会」などの科目では、専門分野以外の知識を身に付け、ディプロマ・ポリシー2.1に定める、実社会の課題について多面的な視点から課題解決を図る能力の修得を図ります。

「日本語の技能」「プレゼンテーション技術」では、ディプロマ・ポリシー2.3に定める、日本語による明確な記述、発表、討議を通じて他者とのコミュニケーションを図る能力を修得します。

さらに、「技術と倫理」「暮らしのなかの起業入門」などの科目では、技術が社会に及ぼす影響や効果を理解し、技術者として責任ある正しい態度を身に付け、ディプロマ・ポリシー3.2に定める能力の修得を図ります。特に「技術と倫理」は必修科目として、情報技術の発展によって社会への影響が大きくなっている中、技術者として理解すべき倫理について学修します。

<外国語科目>

ディプロマ・ポリシー1.4の到達を主目的として、1～2年次での履修を想定した外国語科目を設定します。外国語科目は英語能力を修得する授業科目と、第二外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語）科目で構成されます。英語は、4技能のうち「読む」「聞く」「書く」を扱う「総合英語1・2」「TOEIC1・2」「アカデミック英語1・2」「技術英語1・2」を設定し、主に日本人教員が担当します。主にネイティブ教員が担当する「オーラルイングリッシュ1・2」「オーラルスキルズ1・2」は「聞く」「話す」「書く」を扱います。このように、4技能をバランス良く修得することで、情報技術者として必要な国際的コミュニケーション能力を身に付け、ディプロマ・ポリシー1.4に定める能力の修得を図ります。特に「総合英語1・2」「TOEIC1・2」「オーラルイングリッシュ1・2」は必修科目とし、技術者として必ず必要になる英語能力の修得を図ります。

第二外国語科目では、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語によるコミュニケーションの基礎を学び、様々な文化的背景を理解し、多面的な物事の捉え方ができる能力を身につけます。これによってディプロマ・ポリシー1.4に定める能力の修得を図ります。

<専門科目>

情報分野の専門能力を身に付け、ディプロマ・ポリシー1.1、1.2、1.3、2.2、2.3、3.3を到達することを主目的として、1年次から4年次まで、基礎から順にバランス良く学修していく専門科目群を配置しています。

必修科目としている1年次の「基礎微分積分学」「基礎線形代数学1・2」「確率統計」では、情報分野の基礎となる微分積分学、線形代数学、統計学を学修し、ディプロマ・ポリシー1.1に定める、数学に関する知識を情報分野の課題に応用する能力の修得を図ります。

必修科目としている「IoT」、「オブジェクト指向プログラミング」、「ネットワーク技術」、「データ構造とアルゴリズム」、「Webシステム」、「オブジェクト指向設計」では、情報分野の専門知識の基礎となる、オブジェクト指向プログラミング、IoT、ネットワーク、アルゴリズム、Webシステムについて学び、ディプロマ・ポリシー1.2に定める能力の修得を図ります。

ソフトウェアの設計とプログラミングに関しても、1年次から徐々に高度な内容を学修する科目を配置しています。1年次の「プログラミング基礎1・2」、2年次の「プログラミング実習1・2」ではプログラム開発の初歩から開始し、Java言語を用いたオブジェクト指向プログラミングまでを扱います。3年次の「知能システムプロジェクト1・2」「サイバーセキュリティプロジェクト1・2」「実世界コンピューティングプロジェクト1・2」では、所属するコースの内容にあわせて指示に従ってソフトウェアの設計やプログラムの実装を行う実習を行います。これらの科目によって、ディプロマ・ポリシー1.3、2.2に定める能力の修得を図ります。

2年次の「情報学基礎ゼミナール1・2」3年次の「情報学応用ゼミナール1・2」では、それぞれのコースや研究テーマ毎に設定された課題に取り組み、学生が自主的、継続的に課題発見と知識修得を行う姿勢を身につけることを目指します。また、課題の成果のプレゼンテーションを行い他者との討議を行います。これによって、ディプロマ・ポリシー2.3、3.1に定める能力の修得を図ります。2年次・3年次の「社会情報学実習1・2・3・4」は、企業との連携で実施する、実社会の技術課題にチームで取り組むPBL科目です。この科目では、チームのメンバー同士で協調して課題解決に取り組む過程を通じ、技術的な知識だけでなく、協調性も身につけます。これによって、ディプロマ・ポリシー3.3に定める能力の修得を図ります。

ここまで述べた科目は、「知能システムプロジェクト1・2」「サイバーセキュリティプロジェクト1・2」「実世界コンピューティングプロジェクト1・2」を除いて、情報学部の「知能システム」「サイバーセキュリティ」「実世界コンピューティング」の3コース共通で学修します。各コースでは、それぞれの専門的な技術・知識を学ぶ科目を開講しており、主に、ディプロマ・ポリシー1.2、2.1に定める能力の修得を図ります。

卒業を控えた4年次に配置される「卒業研究」ではそれぞれの学生が主体的に研究テーマの課題解決に取り組みます。課題解決においては、これまでに学修した幅広い専門知識を、与えられた課題のもつ制約・条件の中で応用することが求められます。また、卒業研究は1年間の科目のため、自らのテーマに自主的・継続的に取り組むこととなります。さらに、必要に応じ研究室などのグループの中で協力し、その成果を報告書や発表の形で適切にまとめることも必要となります。このためには、自主的・継続的に課題に取り組む態度や協調性、プレゼンテーション技術も求められます。これらはディプロマ・ポリシー1.2、2.2、2.3、3.1、3.3に定める能力に対応しており、情報学部の専門科目で学修する内容の集大成と言えるものです。「卒業研究」ではその達成度を総合的に評価します。

3. 履修系統図（カリキュラムツリー・マップ）

情報学部の教育方針に基づき、情報学部の教育課程を構築して、各授業科目を設置しています。このような教育課程の体系性や学修の段階、順序等を明示するものとして、履修系統図（カリキュラムツリー、カリキュラムマップ）があります。履修系統図を参照することで、各授業科目の位置づけや授業科目同士の関連性を理解して、体系的な履修計画を立てることができます。

情報学部では、各コースでの履修系統図を以下に掲載しているため、履修登録時には、目指すコースの履修系統図を参照し、各授業科目の位置づけを理解したうえで履修計画を立ててください。

知能システムコース

<https://www.kindai.ac.jp/informatics/department/intelligent-system/about/>

サイバーセキュリティコース

<https://www.kindai.ac.jp/informatics/department/cyber-security/about/>

実世界コンピューティングコース

<https://www.kindai.ac.jp/informatics/department/physical-world-computing/about/>

II. 学修に関する学生生活

1. 学生生活における連絡・情報

- (1) 大学から学生への通知は UNIVERSAL PASSPORT（学生向け Web サービス）や Slack で行います。特に授業期間中は毎日最低一度これらを確認するように心がけてください。連絡を見ないことで思わぬ不利を招くことがありますので、注意してください。
- (2) 手続きや情報の詳細は、学生生活ガイドブックや大学ホームページにも記載されています。

2. 1年間の流れ

1年間の学修の流れは次の通りです。授業回数の都合上、異なる曜日の授業が行われる場合があります。詳細は、年度ごとに「学年暦」でお知らせします。また、特別な事情によって変更が生じた場合は、UNIVERSAL PASSPORT または Slack でお知らせします。

4月上旬	学年始め、履修指導、前期授業開始、履修登録
5月中旬	履修取り下げ期間
7月下旬～8月上旬	前期定期試験、前期授業終了
8月上旬～9月中旬	夏期休暇
9月中旬	後期授業開始、履修登録
10月中旬	履修取り下げ期間
11月上旬	大学祭
11月5日	大学創立記念日
12月下旬～1月上旬	冬期休暇
1月下旬～2月上旬	後期定期試験、後期授業終了
3月下旬	卒業式、学年終了

3. 学期および授業時間

- (1) セメスター制を採用し、4年間8セメスターにわたる一貫教育を行います。各学年を前期と後期の2学期に分け、それぞれ1学期をセメスターといいます。卒業研究を除く科目は1セメスターでその内容を終えるようになっています。また、各セメスターにおいて原則15週ずつ授業を行います。
- (2) 通常の授業は第1時限から第5時限までの範囲で開講されます。ただし、教職課程科目については第6時限に開講される場合があります。各時限の時間帯は次の通りです。

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限	第6時限
9:00 ~ 10:30	10:45 ~ 12:15	13:15 ~ 14:45	15:00 ~ 16:30	16:45 ~ 18:15	18:25 ~ 19:55

4. 休講と補講

やむを得ず休講となる場合には、原則として後日補講を行います。その日程等は UNIVERSAL

PASSPORT でお知らせします。

5. 気象警報及び台風・地震等による交通機関の運行停止に伴う授業の取り扱い

暴風警報等が発表された場合及び台風や地震等により交通機関が運行停止となった場合、学内規程「気象警報及び台風・地震等による交通機関の運行停止に伴う授業の取扱いについて」に基づき授業が短縮または休講となることがあります。大学ホームページまたは UNIVERSAL PASSPORT にてお知らせしますので、その指示に従ってください。居住されている地域の被災により避難指示が発表された場合や通学することが困難な場合は、身の安全を最優先に考え、適切な行動をとってください。また、上記以外に特別な事態が生じた場合にも授業の短縮や休講となる場合があります。

6. 学修上の相談

- (1) 授業の担当教員とは別に、研究指導教員など多くの教員から、研究・履修やその他の学修上のアドバイスを受けることができます。遠慮なく相談してください。
- (2) 学生部では、学生生活のさまざまな悩みに関する相談窓口を設けています。また、奨学金について問い合わせることも可能です。気軽に訪ねてください。

- (2) 除籍された者が所定の期間内に手続きを完了すれば、審査の上復籍が許可されます。ただし、所定の期間を経過した場合は許可されません。
- (3) 学則に定める不適切な行為があった場合は、処分されます。3 ヶ月以上停学処分を受けた場合は、その期間に応じて卒業が延期されます。

6. 転学部

本学に1年以上在籍した者が情報学部から他学部へ転学部を希望する場合は、年度末に実施される転学部試験を受験することができます。合格すると、転学部が許可されます。詳細は希望する学部の学生センターに問い合わせてください。

7. コース選択

第2 Semester 終了時までにはコース選択希望調査を行い、コースを決定します。転コースを希望する者は、第4 Semester の12月以降に選考を行います。

8. 定期健康診断

4月に定期健康診断を行いますので、必ず受けてください。定期健康診断を受けない場合は健康診断証明書の発行ができません。疾病、その他やむを得ない事由により、定期健康診断を受けなかった場合は、速やかにメディカルサポートセンター（11月ホール3階）に申し出て、指示を受けてください。

9. 欠席届

授業・実習のみならず、学部が実施する行事にも必ず出席してください。やむを得ず欠席する場合には、所定の欠席届を提出してください。

(1) 授業の欠席

① 適用範囲、証明書類および日数

欠席事由		必要証明書類等	認可日数
A	傷病等による1週間以上の入院	医師診断書	当該日のみ
B	学校保健安全法に定められた学校感染症	医師診断書、学校感染症治癒証明書、あるいはメディカルサポートセンターへの連絡	治癒するまで
C	申請者の父母、兄弟姉妹が死亡	会葬御礼葉書または死亡通知書の関係書面	1週間
D	申請者のc以外の3親等以内親族が死亡		2日

② 申請要領

- ア) 申請方法の詳細については、UNIVERSAL PASSPORT または Slack で案内します。
- イ) 教育実習および介護等体験による欠席届は、大学院・共通教育学生センターで申請してください。

③ 注意事項

- ア) 交通機関のトラブル等により遅延証明を取得した場合は、授業担当教員に直接申し出てください。
- イ) 「欠席届」は欠席が(1)項にある事由によるものであることを証明するものです。欠席届によって授業の欠席が公的に認められるわけではありませんので注意してください。欠席届が提出された場合の成績評価の扱いについては科目担当教員より指示があります。
- ウ) 学校感染症に罹患した場合には、治癒するまでの期間は学校保健安全法によって出席停止となります。学生センターへ速やかに連絡し、無理に出席しないようにしてください。詳細は「学生生活ガイドブック」を参照してください。

(2) 試験の欠席

① 適用範囲と証明書類

「(1)授業の欠席」①の欠席事由、就職試験、大学院入学試験のいずれかにより、定期試験ならびに科目担当教員が予め指定する主要な確認テストを欠席した場合を追試験の対象とします。

② 申請要領

申請方法の詳細については、UNIVERSAL PASSPORT または Slack で案内します。

IV. 科目の履修と単位の修得

1. 単 位

単位とは、各授業科目あたりの量的（時間数および期間）基準です。1単位は、教員が授業を行う時間および学生が事前・事後に準備学習・復習を行う時間の合計で、標準45時間の学修を要する内容をもって構成されています。

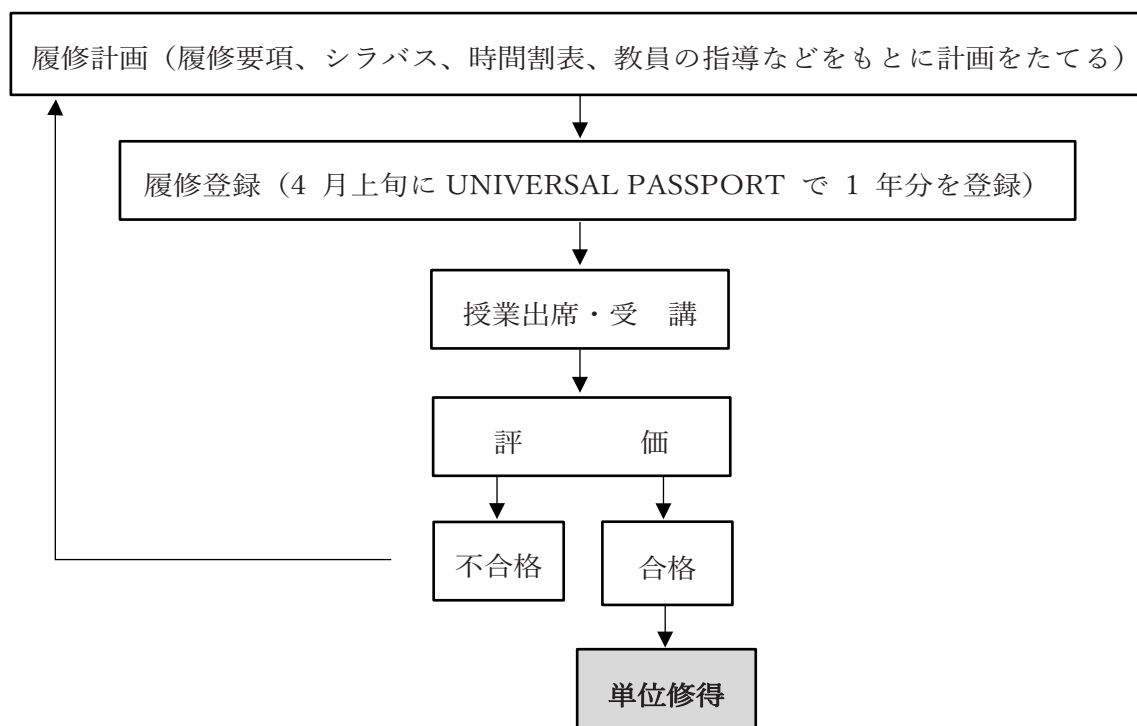
授業科目の単位数は、次のように定めています。

- ① 講義による科目は、週1時限の授業を1 Semesterで2単位
- ② 外国語科目、実習、演習科目は、週1時限の授業を1 Semesterで1単位

2. 科目の履修

(1) 単位修得の流れ

大学では学部のカリキュラムと自分の単位の修得状況に応じて自分で時間割を作成します。作成した時間割を定められた期間内に登録することで授業を受講できます。授業内容を理解し、評価の結果、合格することで単位を修得できます。



(2) 標準履修と再履修

在学学年に配当された授業科目を履修することを標準履修といいます。下級学年の授業科目も履修が可能です。履修登録をして不合格となった科目を次年度以降において再度履修することもできます（再履修）。しかし、上級学年で下級学年の開講科目を履修すると、他の科目と重複する場合や、カリキュラム変更によって受講できない場合もありますので、標準履修して合格するように心がけてください。

(3) 重複履修の禁止

同一時間に2科目以上の授業科目を重複して履修することはできません。同じ時間に2科目

の授業を受けることは不可能であり、重複履修はいかなる理由があっても無効です。よく注意して、履修登録をしてください。

(4) 履修登録単位数

履修登録できる単位数は、原則として各セメスターにおいて **24 単位以内**、各学年で **48 単位以内**です。ただし、「V. 卒業要件・進級基準・科目表」で説明する自由選択科目はこの上限の対象外となります。

(5) 履修登録単位数上限の緩和の特例

年度 GPA (後述) 値が 3.5 以上の学生は、次年度における履修登録単位数の各学期上限が 26 単位に緩和されます。本特例は、当該年度のみ有効とします。

(6) 履修に関する注意

- ① 履修登録期間および履修修正期間は、別途通知します。4 月上旬の履修登録期間に前期と後期両方の履修登録を行ってください。期間中は何度でも登録を変更することができます。前期の単位修得状況に応じて、9 月中旬に後期科目の履修登録修正を行うことができます。
- ② 履修取り下げ期間に、履修の取り下げを行うことができます。この期間中の履修科目の変更や追加は認められません。
- ③ 履修登録をしていない授業科目については、原則として受講や受験をしたとしても単位の認定を受けることはできません。
- ④ 履修登録者の少ない授業科目は、その年度において不開講となる場合があります。この場合は期日を定め、再登録について指導を行います。
- ⑤ 科目によっては、クラス分けを行うことがあります。
- ⑥ 履修計画や履修登録は、すべて自分の責任において行い、正当な理由なく履修を放棄（長期欠席、受験放棄など）することのないようにしなければなりません。
- ⑦ 編入学・転学部等で所属が変わった場合の履修は、その学部の当該学年の履修規定に従わなければなりません。
- ⑧ 留年した場合は、原則として入学時の履修規定（この履修要項記載の規定）が適用されます。カリキュラムが改訂されると、留年生に思わぬ負担がかかる場合もあります。留年しないように履修登録を行い、日頃から勉学に励んでください。

3. 授業形態について

本学では様々な形態で授業を行います。代表的な授業形態は以下の通りです。

(1) 対面授業

教員が学生に対し、同じ空間（教室等）、同じ時間で授業を実施する形態です。

(2) メディア授業

同時オンライン授業：会議アプリ等を活用し、Web を介して自宅や教室以外で時間割に即して授業を受ける形態です。

オンデマンド授業：事前に教員が録画した授業を、時間割にとらわれず授業担当教員が定めた期間に視聴する形態です。

また、(1)と(2)を組み合わせた授業もあり、組み合わせにより対面授業またはメディア授業のどちらかに分類されます。シラバスの「授業形態」に記載していますので、授業内容とともにこの情

報も参考にして履修登録を行ってください。

※(1)と(2)を組み合わせた場合の対面授業の定義

授業回数の半数以上が「対面授業」として設定されている場合は、対面授業と定義します。

4. 情報学部で取得できる資格に関する単位

「教職課程」「司書課程」など所定の単位を修得することで取得できる資格があります。卒業に要する単位に加算されるものと加算されないものがありますので、履修計画の際に十分注意してください。

5. レポート

レポートとは、成績評価にも関係する提出課題です。

(1) 剽窃・盗用行為は倫理に反する不正行為です。これらの行為は、学則および情報学部内規により厳正に処分されます。

① 剽窃とは他人の著作から全部または部分的に文章、図表、語句、話の筋、思想などを盗み、自作の中に自分のものとして用いることです。

② 他人のレポートやテキストを写す行為、ネットの情報を貼り付ける（コピペ）行為はこれに該当します。

① 引用と剽窃・盗用は異なります。引用のルールについては、近畿大学中央図書館ホームページ内「学修サポート」の「レポートの書き方」や「引用について」、「ダメなコピペ・パクリ」≡「剽窃（ひょうせつ）」についてを参照してください。

(2) レポートの提出期限は厳守してください。期限を過ぎると、原則として提出は不受理や無効になります。レポートに書かれた文章は、それを書いた人の大事な自己表現です。自分の文章に誇りを持ち、自分自身の個性を十分に発揮してください。

6. 試験

試験には、**定期試験・確認テスト・追試験・再試験**があります。

(1) **定期試験**とは、各セメスター終了時に行う試験です。情報学部では原則として定期試験は実施しませんが、教職に関係する科目などにおいて一部実施する場合があります。

(2) **確認テスト**とは、授業時間内に実施する試験です。

(3) **追試験**とは、定期試験や教員が予め指定する主要な確認テストを「病気、忌引き（原則として3親等以内）などの正当な理由により受験できなかった」と認められた場合に限り、後日行う試験です。

(4) **再試験**とは、第4学年に在籍している者が当該年度で卒業所要単位数に達せず、その不足単位数が卒業に要する単位のうち3科目以内かつ6単位以内で、当該年度において履修登録をした科目のうち不合格となったものに対して行う試験です。ただし、卒業研究、実習、演習、実技科目等や出席日数が不足している科目、成績評価のための条件がそろわず不受理と判定された科目は対象とはなりません。再試験に合格して所定の単位を修得した場合、卒業が認定されます。

7. 定期試験受験の心得

- (1) 試験の時間割は、原則、試験開始の1週間前に UNIVERSAL PASSPORT で発表します。ただし、発表後に時間割が変更されることがありますので、試験前に再度確認するよう心がけてください。
- (2) 試験の時間帯は以下のとおりです。**授業時間帯とは異なります**ので、注意してください。

第 1 時限	第 2 時限	第 3 時限	第 4 時限	第 5 時限	第 6 時限
9 : 30 ~ 10 : 30	11 : 00 ~ 12 : 00	13 : 30 ~ 14 : 30	15 : 00 ~ 16 : 00	16 : 45 ~ 17 : 45	18 : 30 ~ 19 : 30

- (3) 追試験の受験資格には「正当な理由」が要求されます。試験に際しては、万全の状態を受験できるよう心がけるとともに、試験当日は交通機関の事故などで遅刻をしないためにも、試験開始時刻の30分前までに登校するように心がけてください。
- (4) 試験中の不正行為は絶対に許されません。不正行為があった場合は、学則および情報学部内規により処分（状況により当該科目の無効から退学まで）されます。
- (5) 学費、その他の納付金未納の者は、受験することができません。未納のまま受験しても単位は認められません。
- (6) 学生証を携帯しない場合は、受験できません。試験中は学生証を常に試験監督者の見やすい位置に提示してください。学生証を忘れた場合は、情報学部学生センターに申し出て仮学生証の交付を受けてください。
- (7) 試験中の物品（筆記用具、消しゴムなど）の貸借は、許されません。
- (8) 試験に20分以上遅刻した者は受験できません。また、試験開始後45分経過しなければ退室できません。
- (9) 答案には学部・学科（コース）・学年・学籍番号・氏名を必ず記入してください。記入のないものは採点の対象となりません。また、試験監督者の指示に従って受験者名簿に学籍番号・氏名を必ず記入してください。
- (10) 受験態度の不良もしくは試験監督者の指示に従わない者には、受験の停止を命じることがありますので注意してください。
- (11) 携帯電話などは受験前に電源を切り、身につけないでください。携帯電話などを時計や電卓として使用することは禁止します。

8. 授業への出席

- (1) 全ての授業科目は、毎回出席することを前提に授業が進められます。むやみに欠席してしまうと、授業内容が理解できないことになるので注意してください。
- (2) 授業への出席は、担当教員の指示が特に無ければ、教室に備え付けられているカードリーダーで登録してください。
- (3) 出席が著しく不足する場合（1/3以上の欠席）は、原則として不合格になります。授業科目によっては別の基準がありますので、別途指示があればそれに従ってください。
- (4) 対面授業の場合、授業開始時刻には指定された教室で着席しておくようにしてください。カードリーダーでは開始時刻から数分遅れても遅刻と記録されることがありますが、遅刻し

でも構わないという意味ではありません。遅刻するとみなさん自身の不利益になるばかりか、静粛に授業に出席している他の学生の迷惑にもなります。

9. 成績

- (1) 授業科目の単位修得の合否は、次のように判定されます。100点満点で、**60点以上が合格**となり、**59点以下は不合格**となります。
- (2) 成績評価は、次のように扱われます。**秀 (100点～90点)**、**優 (89点～80点)**、**良 (79点～70点)**、**可 (69点～60点)**、**不可 (59点以下)** なお、授業科目によっては単に「認定」または「不可」という表示で評価する場合があります。また、成績証明書については、秀・優・良・可を用いて表記されます。
- (3) 成績評価のための条件がそろわない場合には、その科目は「**不受**」となります。
- (4) 単位を修得した科目およびその成績は、UNIVERSAL PASSPORT で開示します。
- (5) 学則の定めるところにより、在学中の学業成績が優秀であり、他の学生の模範となる学生に対し、**学長賞 (全単位修得科目の総合平均点 85 点以上の者から 1 名)**、**学部長賞 (全単位修得科目の総合平均点 80 点以上の者から 8 ～ 10 名程度)** などが卒業式で授与されます。また、課外活動・クラブ活動などで顕著な成績や功績を挙げた学生は、特別に表彰されることがあります。

10. GPA (Grade Point Average) 制度

GPA は海外の大学においても採用されている国際標準の成績評価方法です。海外留学、海外の大学院進学、外資系企業への就職などの際に幅広く利用されます。GP や GPA に基づいて、自分の弱点を把握し、履修計画や学修状況を反省し、より実効性のある勉学に取り組むように心がけてください。

GPA は次の数値換算と計算式で算出されます。

実点評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	不受験
5段階評価	秀	優	良	可	不可	不受
GP グレード・ポイント	4	3	2	1	0	0

$$\text{GPA} = \frac{\{(\text{履修登録科目の単位数}) \times (\text{履修登録科目の GP})\} \text{の総和}}{\text{履修登録科目の単位数の総和 (不受と不可の単位数も含む)}}$$

- ① GPA は小数第 3 位を四捨五入して、その表記は小数第 2 位までとします。
- ② GPA の計算式には、卒業に要する単位に加算されない科目は含まれません。また、成績が「認定」または「不可」で評価される科目も含まれません。
- ③ 不可になった科目または不受験の科目を再履修して単位を修得した場合、通算の GPA には過去の GP=0 は算入されず再履修の GP のみが算入されます。ただし、再履修をしても不可・不受験であった場合は、通算 GPA には過去の GP=0 と再履修時の GP=0 の両方が算入されます。

- ④ 進級要件、卒業要件には GPA を適用しません。

11. 特待生制度

4年生を除く各在学年次において、次の①から③の全ての条件を満たした成績優秀者は、学修状況等の審査を経た後、次年度（次学年）の授業料を全額免除します。なお、学費減免を受けようとするものは、期日までに申請書を提出しなければなりません。

- ① 申請する年度において、修得科目の総合平均点が 90 点以上であること（卒業要件に算入される科目のみを対象とし、小数第 1 位を四捨五入して算出する）。
- ② 申請する年度において、28 単位以上を修得して進級すること。
- ③ 申請する年度またはその前年度において、TOEIC® Listening & Reading Test のスコア 600 点以上を取得、又は応用情報技術者試験に合格していること。

* 修得科目の平均点は各年度後期の成績開示日に UNIVERSAL PASSPORT で開示します。

12. 生成 AI の利用について

ChatGPT などの生成 AI は、生産性や創造性を高めるツールとして着目されています。情報系の技術者は、これからの時代は生成 AI を上手に使いこなす能力が求められます。しかし、レポート課題を生成 AI に丸投げし、出力結果をそのまま提出するようでは、自らの能力を高めることはできません。また、生成 AI の利用にあたっては、個人情報や機密情報の扱いなど、技術者倫理に基づいた正しい利用法を身に付けなければいけません。

情報学部のカリキュラムでは、1 年前期の「AI リテラシー」で生成 AI の簡単な原理や、技術者倫理について解説した後、各セメスターの科目ではその段階での学修目標に応じた生成 AI の活用を行っていきます。学部全体の利用ルールは以下の URL に示していますので、よく読んでおいてください。また、各科目において生成 AI の利用に関する指示があれば、それに従うようにしてください。

【生成 AI(ChatGPT 等)に関する留意事項】

<https://www.kindai.ac.jp/informatics/news/important/2023/04/038615.html>

V. 卒業要件・進級基準・科目表

1. 科目の分類

授業科目には、科目内容による分類と単位修得要件による分類の2つがあります。まず、科目内容による分類には、**共通教養科目**、**外国語科目**、**専門科目**があります。単位修得要件による分類には、必ず単位を修得しなければならない**必修科目**、必修に準ずるがいくつかの選択が可能な**選択必修科目**、学部においてより深い知識を得るには必要であるが選択して履修することができる**選択科目**があります。その他に**自由選択科目**が開講されています。自由選択科目の単位は進級・卒業に要する単位には加算されません。

2. 卒業要件

本学部を卒業するためには、次の要件をすべて満たさなければなりません。

- ① 各学年1年以上、合計4年間以上在学すること。
- ② 共通教養科目14単位以上、外国語科目14単位以上、専門科目96単位以上の合計124単位以上を修得すること。ただし、各科目の単位数は各コース別表に定める通りとする。

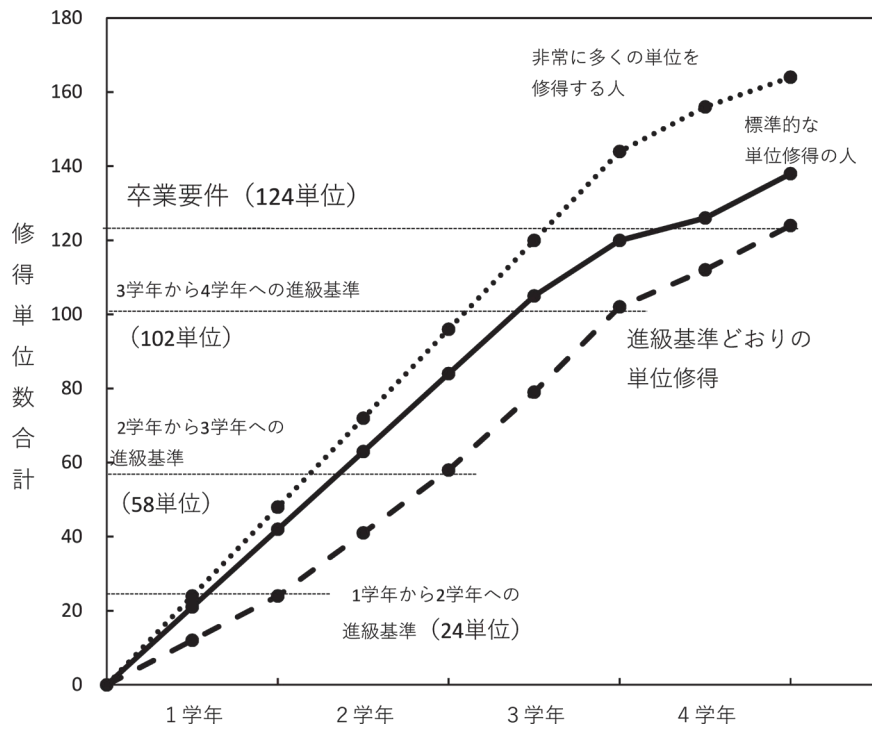
3. 進級基準

本学は単位制度により教育を行っています。しかし、理工系の学部においては、基礎から応用への積み重ねが必要です。そのため、情報学部ではその教育体系に合わせて進級基準を定めています。次年度に進級するためには、当該学年に1年以上在学した上で、定めた基準を満たす必要があります。この進級基準を満たない場合は留年となり、上級学年の授業科目を履修することはできません。カリキュラムや進級基準を十分理解した上で履修計画を立ててください。

進級基準は最低必要単位数です。進級基準通りの単位修得数では上級学年で多くの単位を修得する必要性が生じます。また、基礎知識・学力が不足したまま専門性の増した科目を履修することになり、理解が難しくなります。卒業要件もまた最低必要単位数です。本学でさまざまな科目を学び、卒業要件以上に単位を修得し、自らの能力を大いに高めて卒業することを望みます。

次に単位修得の目安を示します。標準的な単位修得をする人は、1～3学年で各セメスターあたり20単位前後を修得しています。これは不合格になる科目もありますので、「履修登録」の単位数ではありません。4学年では卒業研究や就職活動のため、科目の履修が難しくなります。高学年になってからペースを上げるような履修は避けましょう。

進級基準別表 修得単位数の目安



4. 科目表・進級基準・卒業要件

共通教養科目表

◎：必修科目、○：選択科目

授 業 科 目	単 位 数	必修 選択 の別	履修学年、期別、セメスターと1週当たりの授業時間数							
			1 学年		2 学年		3 学年		4 学年	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
			1	2	3	4	5	6	7	8
人間性・社会性科目群										
自校学習	1	○	2							
現代社会と法	2	○	2							
環境と社会	2	○	2							
教養特殊講義 A	2	○	{2}	{2}						
科学技術の進歩と人権	2	○		2						
暮らしのなかの憲法	2	○		2						
住みよい社会と福祉	2	○		2						
技術と倫理	2	◎		2						
資源とエネルギー	2	○			2					
心理と行動	2	○				2				
企業倫理と知的財産	2	○						2		
地域性・国際性科目群										
国際経済と企業の国際化	2	○	2							
国際社会と日本	2	○	2							
教養特殊講義 B	2	○	{2}	{2}						
ビジネスモデルとマネジメント	2	○		2						
メディアの読み方	2	○					2			
課題設定・問題解決科目群										
近大ゼミ	2	◎	2							
日本語の技法	2	○	2							
暮らしのなかの起業入門	2	○	2							
データリテラシー入門	2	○	{2}	{2}						
教養特殊講義 C	2	○	{2}	{2}						
情報学入門ゼミナール	2	◎		2						
科学的問題解決法	2	○					2			
プレゼンテーション技術	2	○						2		
スポーツ・表現活動科目群										
生涯スポーツ 1	1	○	2							
生涯スポーツ 2	1	○		2						

注1. 表中の授業時間数欄に記載されている「2」は1時限(90分)を表す。

2. { } はいずれかのセメスターで開講される予定。

外国語科目表

◎印は必修科目、●▲印は選択必修科目、○印は選択科目を示す。

授 業 科 目	単 位 数	必修 選択 の別	履修学年、期別、セメスターと1週当たりの授業時間数							
			1 学年		2 学年		3 学年		4 学年	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
			1	2	3	4	5	6	7	8
〔外国語科目〕（英語）										
総合英語 1	2	◎	4							
オーラルイングリッシュ 1	1	◎	2							
総合英語 2	2	◎		4						
オーラルイングリッシュ 2	1	◎		2						
TOEIC 1	1	◎			2					
オーラルスキルズ 1	1	▲			2					
アカデミック英語 1	1	○			2					
TOEIC 2	1	◎				2				
オーラルスキルズ 2	1	▲				2				
アカデミック英語 2	1	○				2				
資格英語	1	●				2				
技術英語 1	1	●					2			
技術英語 2	1	●						2		
海外技術英語研修 1	1	●	—	—	—	—	—	—	—	—
海外技術英語研修 2	1	●	—	—	—	—	—	—	—	—
海外語学研修（英語）	2	○	—	—	—	—	—	—	—	—
〔外国語科目〕（第二）										
ドイツ語総合 1	1	○	2							
フランス語総合 1	1	○	2							
中国語総合 1	1	○	2							
韓国語総合 1	1	○	2							
ドイツ語総合 2	1	○		2						
フランス語総合 2	1	○		2						
中国語総合 2	1	○		2						
韓国語総合 2	1	○		2						
ドイツ語総合 3	1	○			2					
フランス語総合 3	1	○			2					
中国語総合 3	1	○			2					
韓国語総合 3	1	○			2					
ドイツ語総合 4	1	○				2				
フランス語総合 4	1	○				2				
中国語総合 4	1	○				2				
韓国語総合 4	1	○				2				
海外語学研修（中国語）	2	○	—	—	—	—	—	—	—	—
海外語学研修（韓国語）	2	○	—	—	—	—	—	—	—	—

注1. 表中の授業時間数欄の2は1週に1時限(90分)、4は1週に2時限(180分)を示す。

2. —は履修の対象となるセメスターを示す。

3. 選択必修科目は、「技術英語1」「技術英語2」「資格英語」「海外技術英語研修1」「海外技術英語研修2」の5科目から1単位以上、「オーラルスキルズ1」「オーラルスキルズ2」の2科目から1単位以上を修得のこと。

専門科目表

◎印は必修科目、○印は選択科目、△印は自由選択科目を示す。

授 業 科 目	単 位 数	必修 選択 の別	履修学年、期別、セメスターと1週当たりの授業時間数									
			1 学年		2 学年		3 学年		4 学年			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
			1	2	3	4	5	6	7	8		
基礎微分積分学	2	◎	2									
基礎線形代数学 1	2	◎	2									
コンピュータ基礎	2	◎	2									
プログラミング基礎 1	2	◎	4									
AI リテラシー	2	◎	2									
基礎物理学	2	○	2									
e スポーツ	2	△	2									
基礎情報システム	2	△	4	4								
I o T	2	◎		2								
確率統計	2	◎		2								
基礎線形代数学 2	2	◎		2								
プログラミング基礎 2	2	◎		4								
アプリケーション開発実習 1	1	◎		2								
オブジェクト指向プログラミング 1	2	◎		2								
AI プログラミング	2	○		2								

注1. 表中の授業時間数欄の 2 は 1 週に 1 時限 (90 分)、4 は 1 週に 2 時限 (180 分) を示す。

【知能システムコース】

◎印は必修科目、○印は選択科目、△印は自由選択科目を示す。

授 業 科 目	単 位 数	必 修 選 択 の 別	履修学年、期別、セメスターと1週当たりの授業時間数									
			1 学年		2 学年		3 学年		4 学年			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
			1	2	3	4	5	6	7	8		
アプリケーション開発実習 2	1	◎			2							
オブジェクト指向プログラミング 2	2	◎			2							
ネットワーク技術	2	◎			2							
データ構造とアルゴリズム	2	◎			2							
離散数学	2	◎			2							
多変量解析	2	◎			2							
メディア処理	2	◎			2							
プログラミング実習 1	2	◎			4							
情報学基礎ゼミナール 1	2	◎			2							
社会情報学実習 1	1	◎			2							
ITビジネス基礎	2	○			2							
プログラミング実習 2	2	◎				4						
情報学基礎ゼミナール 2	2	◎				2						
社会情報学実習 2	1	◎				2						
Webシステム	2	◎				2						
オブジェクト指向設計	2	◎				2						
データエンジニアリング	2	◎				2						
統計データ解析	2	◎				2						
機械学習 1	2	◎				2						
自然言語処理	2	○				2						
数理計画法	2	○				2						
人工知能	2	◎					2					
情報理論	2	◎					2					
コンピュータビジョン	2	◎					2					
深層学習	2	◎					2					
情報学応用ゼミナール 1	2	◎					2					
知能システムプロジェクト 1	2	◎					4					
データベースシステム	2	○					2					
データモデリング	2	○					2					
機械学習 2	2	◎						2				
データマイニング	2	◎						2				
情報セキュリティ	2	◎						2				
HCI	2	◎						2				
情報学応用ゼミナール 2	2	◎						2				
知能システムプロジェクト 2	2	◎						4				
医療情報学応用	2	○						2				
知的エージェント	2	○						2				
情報と職業	2	○								2		
社会情報学実習 3	1	○						—	—	—	—	
社会情報学実習 4	1	○						—	—	—	—	
卒業研究	8	◎								—	—	

注1. 表中の授業時間数欄の2は1週に1時限(90分)、4は1週に2時限(180分)を示す。

2. —:は履修の対象となるセメスターを示す。

3. 本コース以外の科目を修得した場合は、最大12単位までを専門選択科目の進級・卒業所要単位として認める。

【サイバーセキュリティコース】

◎印は必修科目、○印は選択科目、△印は自由選択科目を示す。

授 業 科 目	単 位 数	必 修 選 択 の 別	履修学年、期別、セメスターと1週当たりの授業時間数									
			1 学年		2 学年		3 学年		4 学年			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
			1	2	3	4	5	6	7	8		
アプリケーション開発実習2	1	◎			2							
オブジェクト指向プログラミング2	2	◎			2							
ネットワーク技術	2	◎			2							
データ構造とアルゴリズム	2	◎			2							
離散数学	2	◎			2							
OSとコンピュータアーキテクチャ	2	◎			2							
暗号と情報セキュリティ	2	◎			2							
プログラミング実習1	2	◎			4							
情報学基礎ゼミナール1	2	◎			2							
社会情報学実習1	1	◎			2							
ITビジネス基礎	2	○			2							
プログラミング実習2	2	◎				4						
情報学基礎ゼミナール2	2	◎				2						
社会情報学実習2	1	◎				2						
情報セキュリティ対策と管理1	2	◎				2						
Webシステム	2	◎				2						
オブジェクト指向設計	2	◎				2						
ネットワークセキュリティ技術	2	◎				2						
情報数学	2	◎				2						
ブロックチェーン	2	○				2						
情報セキュリティ対策と管理2	2	◎					2					
人工知能	2	◎					2					
データベースシステム	2	◎					2					
情報理論	2	◎					2					
ソフトウェア工学	2	◎					2					
セキュリティ解析技術	2	◎					2					
モバイル通信	2	◎					2					
情報学応用ゼミナール1	2	◎					2					
サイバーセキュリティプロジェクト1	2	◎					4					
サイバー犯罪学	2	○					2					
ネットワーク演習1	2	△					4					
組み込みシステム	2	◎						2				
セキュリティ技術評価と実装技術	2	◎						2				
クラウドコンピューティング	2	◎						2				
情報学応用ゼミナール2	2	◎						2				
サイバーセキュリティプロジェクト2	2	◎						4				
情報と社会	2	○						2				
ネットワーク演習2	2	△						4				
情報と職業	2	○							2			
社会情報学実習3	1	○						—	—	—	—	
社会情報学実習4	1	○						—	—	—	—	
卒業研究	8	◎								—	—	

注1. 表中の授業時間数欄の2は1週に1時限(90分)、4は1週に2時限(180分)を示す。

2. —は履修の対象となるセメスターを示す。

3. 本コース以外の科目を修得した場合は、最大12単位までを専門選択科目の進級・卒業所要単位として認める。

4. 「ネットワーク演習1」、「ネットワーク演習2」の受講に関しては受講資格が必要。受講資格の詳細は別途案内する。

【実世界コンピューティングコース】

◎印は必修科目、○印は選択科目、△印は自由選択科目を示す。

授 業 科 目	単 位 数	必 修 選 択 の 別	履修学年、期別、セメスターと1週当たりの授業時間数									
			1 学年		2 学年		3 学年		4 学年			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
			1	2	3	4	5	6	7	8		
アプリケーション開発実習2	1	◎			2							
オブジェクト指向プログラミング2	2	◎			2							
ネットワーク技術	2	◎			2							
データ構造とアルゴリズム	2	◎			2							
コミュニケーション論	2	◎			2							
エンターテインメントコンピューティング	2	◎			2							
プログラミング実習1	2	◎			4							
情報学基礎ゼミナール1	2	◎			2							
社会情報学実習1	1	◎			2							
調査データ分析	2	○			2							
ITビジネス基礎	2	○			2							
プログラミング実習2	2	◎				4						
情報学基礎ゼミナール2	2	◎				2						
社会情報学実習2	1	◎				2						
Webシステム	2	◎				2						
オブジェクト指向設計	2	◎				2						
ネットワークセキュリティ技術	2	◎				2						
人間中心設計論	2	◎				2						
コンピュータグラフィックス	2	◎				2						
サービスコンピューティング	2	◎				2						
ゲームプログラミング	2	○				2						
モデル最適化基礎	2	○				2						
人工知能	2	◎						2				
アドバンスドWebシステム	2	◎						2				
人工現実感	2	◎						2				
インタラクション設計	2	◎						2				
情報学応用ゼミナール1	2	◎						2				
実世界コンピューティングプロジェクト1	2	◎						4				
深層学習	2	○						2				
データベースシステム	2	○						2				
情報セキュリティ	2	◎							2			
複合システムデザイン	2	◎							2			
インタラクティブシステム	2	◎							2			
深層強化学習	2	◎							2			
情報学応用ゼミナール2	2	◎							2			
実世界コンピューティングプロジェクト2	2	◎							4			
データマイニング	2	○							2			
社会シミュレーション	2	○							2			
情報と職業	2	○								2		
社会情報学実習3	1	○						—	—	—	—	
社会情報学実習4	1	○						—	—	—	—	
卒業研究	8	◎								—	—	

注1. 表中の授業時間数欄の2は1週に1時限(90分)、4は1週に2時限(180分)を示す。

2. —は履修の対象となるセメスターを示す。

3. 本コース以外の科目を修得した場合は、最大12単位までを専門選択科目の進級・卒業所要単位として認める。

進級基準（コース共通）

1. 第1学年から第2学年に進級するためには、第1学年で配当された「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から24単位以上を修得していなければならない。
2. 第2学年から第3学年に進級するためには、第1学年および第2学年で配当された「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から58単位以上を修得していなければならない。
3. 第3学年から第4学年に進級するためには、次の条件を満たしたうえで総計102単位以上を修得していなければならない。

① 共通教養科目から	12 単位
② 外国語科目から	12 単位
③ 専門科目から	78 単位

ただし、以下の科目は必ず修得すること

「プログラミング基礎 1・2」

「プログラミング実習 1・2」

「情報学基礎ゼミナール 1・2」

「情報学応用ゼミナール 1・2」

「知能システムプロジェクト 1・2」(知能システムコースのみ)

「サイバーセキュリティプロジェクト 1・2」(サイバーセキュリティコースのみ)

「実世界コンピューティングプロジェクト 1・2」(実世界コンピューティングコースのみ)

(注) 所属コース以外の専門科目を修得した場合は、最大12単位までを専門選択科目の進級所要単位として認める。

卒業要件

本学部を卒業するためには、4年間以上在学し、下記の表に従い共通教養科目（14単位以上）、外国語科目（14単位以上）および専門科目（96単位以上）の単位を修得し、共通教養科目、外国語科目、専門科目を合計して124単位以上修得しなければならない。

卒業に要する最低単位数			備考	
共通教養科目	必修	6		
	選択	8 (43)		
	合計	14		
外国語科目	必修	8	選択必修科目は、「技術英語1」「技術英語2」「資格英語」「海外技術英語研修1」「海外技術英語研修2」の5科目から1単位以上、「オーラルスキルズ1」「オーラルスキルズ2」の2科目から1単位以上を修得のこと。	
	選択必修	2 (7)		
	選択	4 (24)		
	合計	14		
専門科目	知能システム コース	必修	86	
		選択	10 (22)	
		合計	96	
	サイバーセキュリティ コース	必修	90	
		選択	6 (16)	
		合計	96	
	実世界コンピューティング コース	必修	86	
		選択	10 (24)	
		合計	96	
合計		124 以上		

注1 卒業所要単位数以上の選択必修科目を修得した場合は、同じ科目群の選択科目の単位数に充当することができる。

注2 選択必修科目および選択科目の（ ）内の数字は開講予定科目の総単位数を示す。

注3 所属コース以外の専門科目を修得した場合は、最大 12 単位までを専門選択科目の卒業所要単位数として認める。

5. その他の履修・単位認定制度

(1) 英語科目の単位認定制度

「TOEIC 1」「TOEIC 2」（計 2 単位）については、TOEIC® Listening & Reading Test（オンライン版を除く）で 600 点以上取得し、情報学部学生センターにて所定の手続きを行った場合、当該科目を 100 点で単位認定します。本学入学後に取得したスコアのみ有効で、Official Score Certificate（公式認定証）が必要です。

ただし、当該科目の単位を修得済みの場合は、申請しても、成績の上書きはされません。また、「TOEIC 1」の単位を修得したあとで 600 点以上取得した場合は、所定の手続きを経て「TOEIC 2」のみ、100 点で単位認定されます。

(2) プログラミング系基礎科目の単位認定制度

情報処理推進機構（IPA）が実施する「基本情報技術者試験」または「応用情報技術者試験」に合格し、学生本人が前後期の定められた期間中に情報学部学生センターに申請した場合、「AIプログラミング」「アプリケーション開発実習2」（計2単位）の単位を100点として認定します。入学前に取得した合格証書でも申請できます。

ただし、当該科目の単位を修得済みの場合は、申請しても成績の上書きはされません。

(3) 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）

先端IT技術者としての応用基礎力を修得するため、『KDIX 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎）』を開講しています。本プログラムは『文部科学省数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）』の認定を受けています。（認定の有効期限：2029年3月31日まで）

このプログラムを修了することで、先端IT技術者としての数理・データサイエンス・AIの応用基礎力を修得することができます。特徴として、基礎理論だけではなく、社会での活用例を交えて理解を深める工夫を行っており、実社会の様々な問題をテーマとして取り上げることで、データ・AI活用の企画・実践・評価することができるようになります。

修了要件は、以下の科目を必修として22単位修得することです。

	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
共通教養科目	データリテラシー入門	技術と倫理		
専門科目	基礎微分積分学 基礎線形代数学1 コンピュータ基礎 プログラミング基礎1	確率統計 IoT AIリテラシー	データ構造とアルゴリズム 社会情報学実習1	社会情報学実習2

(4) 「大学コンソーシアム大阪」単位互換科目

「大学コンソーシアム大阪」の協定に参加する大学において開講される科目を履修する制度です。指定された科目の単位を修得した場合、最大で6単位を専門選択科目として単位を認定します。単位互換科目および履修方法については、別冊「単位互換履修生募集ガイド（単位互換科目シラバス）」を参照してください。

(5) 海外留学制度

本学在学中の留学および語学研修制度は次の通りです。この制度により留学する場合、留学先で修得した単位を換算して認定します。詳しくは学生生活ガイドブックや大学ホームページを参照、または情報学部学生センターやグローバルエデュケーションセンターにお問い合わせください。

① 情報学部独自留学プログラム

・KDIX.global

情報学部が提携する留学先大学に約半年間の留学を行うプログラムです。現地での履修科目が本学単位に振替認定されることに加え、留学先にて情報学部の授業をオンライン受講するため、4年間での卒業が可能となっています。優秀な学生の学びを広げるために実施しており、学部内選考を突破した学生が経済的支援を受けながら留学するというプログラムです。

・ KDIX.global/lite

情報学部が提携する留学先大学に春期休暇を利用して留学を行い、科学分野の最新情報や起業などについて英語で学ぶプログラムです。最新の科学に関する語彙を増やし、事業プランの検討やグループワークを通して、起業の方法や必要スキルなどを英語で学びます。所定の条件を満たした上でこのプログラムに参加し、成績評価を受けることで「海外技術英語研修 1」(1 単位) または「海外技術英語研修 1・2」(2 単位) の単位を修得できます。

② 交換留学・派遣留学

本学と学生交換協定や学生派遣協定を締結している大学へ留学する制度です。各自の専門分野に応じた専門科目を受講します。成績優秀かつ派遣先大学の設定語学基準等をクリアしている留学希望者に対し、面接等を実施し、本学の代表としてふさわしい人物を選抜し、派遣します。

③ 認定留学

本学の海外協定校以外の大学へ留学を希望する学生自身が、留学先の入学許可を取得した上で、本学に認定留学を申請し、公式に許可を受けて留学する制度です。日本政府、外国政府、および各種民間団体等の奨学金により留学する場合もこの制度の適用を受けることができます。語学研修のみを目的とした留学はこれに含みません。

④ 短期語学研修

春期または夏期休暇期間を利用して、本学と海外の学術交流協定大学との間で実施されている制度です。この留学は短い期間で国際的感覚を養い、実践的な語学能力を高めるのに適しており、交換・派遣留学のきっかけとして活用することができます。情報学部では、その研修に参加し、成績評価を受けることで「海外語学研修」(2 単位) の単位を修得できます。

6. 外国人留学生の履修

外国人留学生の「共通教養科目・外国語科目・基礎科目」の履修は、基本的には一般学生と同じです。たとえば、卒業要件となる「修得すべき単位数」は、一般学生と全く同じです。また、外国人留学生は、一般学生と同じクラスの授業を受講することを原則とします。

しかし、外国人留学生の学修効果を高めるために、外国人留学生だけを対象として、別表に示した外国人留学生特例科目を開講しています。教員にも相談の上、履修計画を立ててください。ただし、表に記載のとおり、すべて選択科目となります。また、「外国語科目」の履修については、次の点に注意してください。

(1) 「外国語科目」の履修制限について

外国語科目の履修に関しては、母国において公用語・母国語およびそれに準ずる日常語として使用されている言語を履修することは認められません。

(2) 「日本語関連科目」の履修について

卒業要件である「外国語科目から 14 単位以上修得すること」には「日本語関連科目」の単位を含めることができます。

外国人留学生特例科目の受講を希望する場合は、なるべく第 1 回目の授業に出席するようにしてください。これらの科目は、教育効果などの観点から定員を設けていますので、定員を超過した場合は受講を制限することがあります。

外国人留学生特例科目表

科目群	科目群詳細	授業科目	単位数	必修・選択 の別		レベル	履修学年、期別、セメ スターと1週あたりの 授業時間数	
				必修	選択		1～4 学年	
							前期	後期
共通教養科目	共通教養	日本概論 1	2		○	全レベル	2	
		日本概論 2	2		○			2
		日本概論 3	2		○		2	
		日本概論 4	2		○			2
外国語科目	日本語	日本語読解 1	1		○	レベル4	2	
		日本語読解 2	1		○			2
		日本語作文 1	1		○		2	
		日本語作文 2	1		○			2
		日本語会話 1	1		○		2	
		日本語会話 2	1		○			2
		日本語読解 3	1		○	レベル5	2	
		日本語読解 4	1		○			2
		日本語作文 3	1		○		2	
		日本語作文 4	1		○			2
		日本語会話 3	1		○		2	
		日本語会話 4	1		○			2
		日本語アカデミックリーディング1	1		○	全レベル	2	
		日本語アカデミックリーディング2	1		○			2
		日本語リサーチメソッド 1	1		○		2	
		日本語リサーチメソッド 2	1		○			2
		日本語プレゼンテーション 1	1		○		2	
		日本語プレゼンテーション 2	1		○			2
		プロジェクトワーク 1	1		○	レベル5	2	
		プロジェクトワーク 2	1		○	(※)		2

・表中の授業時間数欄に記載されている2は1週に1時限(90分)を表す。

(※) レベル4の学生が履修する場合には、「日本語読解1・2」、「日本語作文1・2」、「日本語会話1・2」の6科目全てを取得済みであることが条件です。

VI. 情報学部に関連の深い各種資格・検定

1. 情報学部で目標とする資格・検定

在学中に資格を取得すると、専門や技術的能力が高く評価されるだけでなく、就職等で有利に扱われる場合もあります。また、卒業後に資格取得を目指すためにも在学中に専門分野の知識をしっかりと身に付けておくことが必要です。将来を意識して、下級学年のうちから積極的に関連する科目を履修し、受験対策講座などにも参加することを推奨します。

情報学部に関係のある主な資格を下表に示します。各種試験には以下があります。

- ① 所定の単位修得で取得できるもの
- ② 在学中に受験して、合格できる可能性のあるもの
- ③ 在学中の修得科目の知識・技術を役立て、卒業後に受験するもの
- ④ 資格に関連する所定の科目の単位を修得することで、卒業後に資格試験の一部が免除されるまたは卒業後所定の実務経験によって資格が認定されるもの

下表の記号は A（国家試験）、B（民間試験）、C（その他）を示します。詳細は情報学部ホームページを参照してください。または教務委員や教員に相談してください。

所定の単位修得で取得できる資格		関連の深い各種資格	
A	【教職課程】高等学校教諭一種免許状（情報）	A	基本情報技術者
A	【司書課程】図書館司書	A	応用情報技術者
		A	情報処理安全確保支援士試験
		A	ネットワークスペシャリスト
		A	情報セキュリティマネジメント
		A	IT ストラテジスト
		A	システムアーキテクト
		B	シスコ技術者認定CCNA・CCNP
		B	シスコ技術者認定CCNA Cybersecurity
		B	Oracle Academy Java SE 7/8 Bronze Oracle
		B	Academy Java SE 12c Bronze
		B	情報検定（情報システム・情報デザイン）
		B	CG クリエイター検定
		B	CG エンジニア検定
		B	Web デザイナー検定
		B	画像処理エンジニア検定
		B	マルチメディア検定

2. 教職課程の履修

情報学部では、教員免許を取得するための教職課程を用意しています。履修希望者は、UNIVERSAL PASSPORT 等で案内される「教職課程履修ガイダンス（4月上旬の開催予定）」に出席し、所定の手続きを行わなければ教職課程を履修できません。詳しくはガイダンス時に配付される「教職課程履修要項」を参照してください。なお、教職課程については、大学院・共通教育学生センター（18号館1階）にお問い合わせください。

情報学部で取得できる免許状と教科の種類

学科	高等学校教諭一種免許状
情報学科	情報

3. 司書課程の履修

司書とは、図書館で働く専門的な職員のことです。司書を目指すためには司書課程を履修する必要がありますので、履修希望者は、UNIVERSAL PASSPORT 等で案内される「司書課程履修ガイダンス（4月上旬の開催予定）」に出席し、所定の手続きを行ってください。詳しくは、21号館2階の経営学部学生センター（短期大学担当）にお問い合わせください。

4. 各種資格の講座案内

近畿大学ではさまざまな課外講座を用意して、資格取得を目指す学生の皆さんをサポートしています。在学中にさまざまな資格を取得しておくことは、就職戦線を優位に乗り切るための有効な手段ともなります。また、資格取得に向けて挑戦することは自己のスキルアップにつながり、その過程や結果は大きな自信となるでしょう。学内で受講できるこれらの講座を有効に利用して、在学中に多くの資格取得を目指してください。詳しくは、キャリアセンターもしくはホームページを確認してください。

VII. 主な施設紹介

1. 中央図書館 (<https://www.clib.kindai.ac.jp/>)

学修・研究にあたっては、中央図書館を大いに活用してください。中央図書館は、中央館（10号館）・ビブリオシアター（5号館）と19号館図書室・A館図書室・B館図書室の3つの分室からなります。

2. アカデミックシアター (<https://act.kindai.ac.jp/>)

文理の垣根を越えて社会の諸問題を近畿大学として解決に導くための学術拠点です。建学の精神「実学教育」と「人格の陶冶」を礎に、学問的な知識や技能をアクティヴェイトする社会実践と、文理融合・領域横断的なリベラルアーツ教育を相補的に展開する”知の劇場”です。多様な学問分野を横断する独自の図書分類「近大 INDEX」、新たな社会的価値を創造する実学プロジェクト「ACT EX（イーエックス）」、地元企業と協同したモノづくりの実験工房である「THE GARAGE」という三つの機能を通して、総合大学としての力を結集し、単一の専門分野では対応できない複合性、多面性をもった社会課題に向き合います。

3. KINCUBA Basecamp (<https://www.kindai.ac.jp/kincuba/>)

「起業」というチャレンジを山に例えたとき、目標到達を目指す拠点となる場所、それがKINCUBA Basecamp。このインキュベーション施設は、近畿大学東大阪キャンパスを象徴する西門の目の前に位置し、24時間利用可能、登記利用もでき、環境面からも起業を支援しています。同じ夢と志をもった仲間といつでも集うことができる共創空間で、近畿大学発ベンチャーの創出を後押しします。

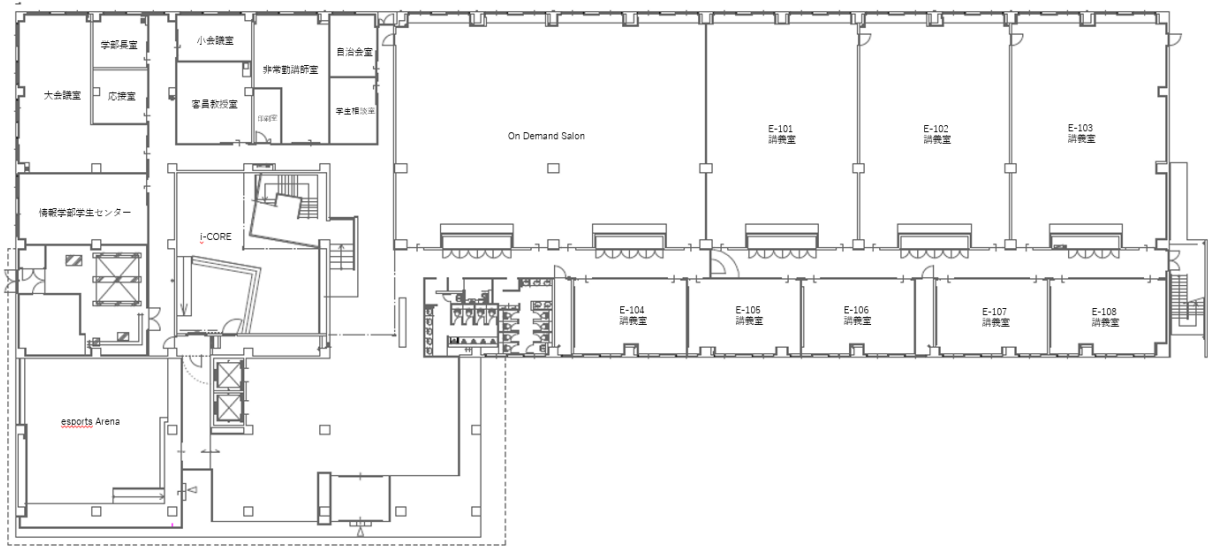
4. 英語村 E3[e-cube] (<https://www.kindai.ac.jp/e-cube/>)

「遊びながら英語を楽しく学ぶ」をコンセプトに、コンセプトを徹底して実践する”英語の遊び場”です。「遊びを取り入れた勉強」ではなく、徹頭徹尾、「遊び」を貫きます（ただし、英語で）。日本の大学で初めてとなるユニークな試みは、大学英語教育の現状に一石を投じつつ、学生たちと英語との距離をぐんぐん縮めています。

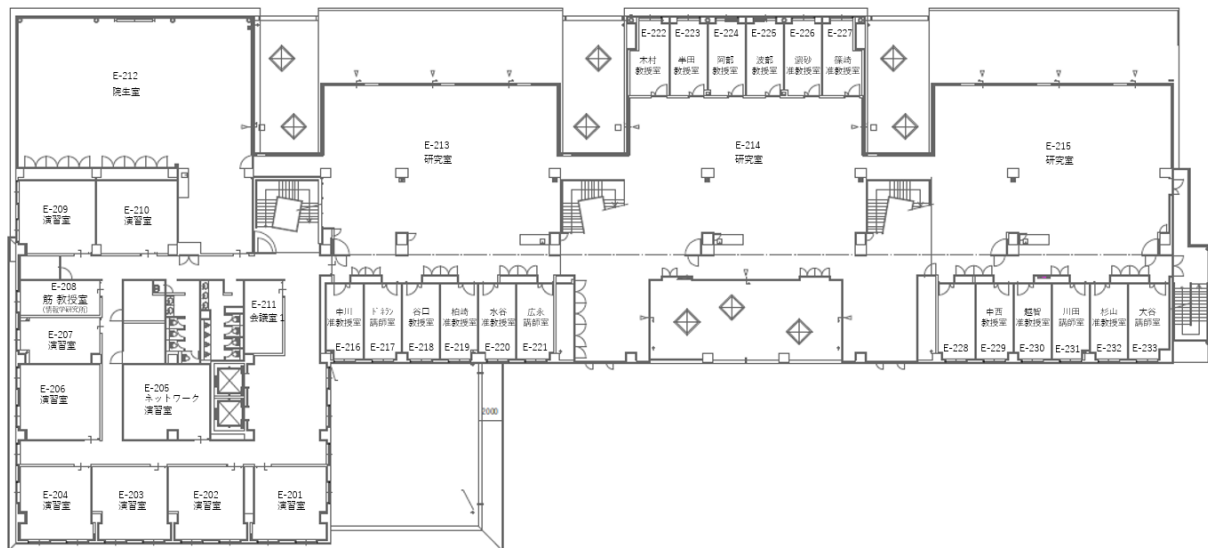
参考：キャンパスマップ (<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/campus-guide/higashi-osaka/>)

E 館

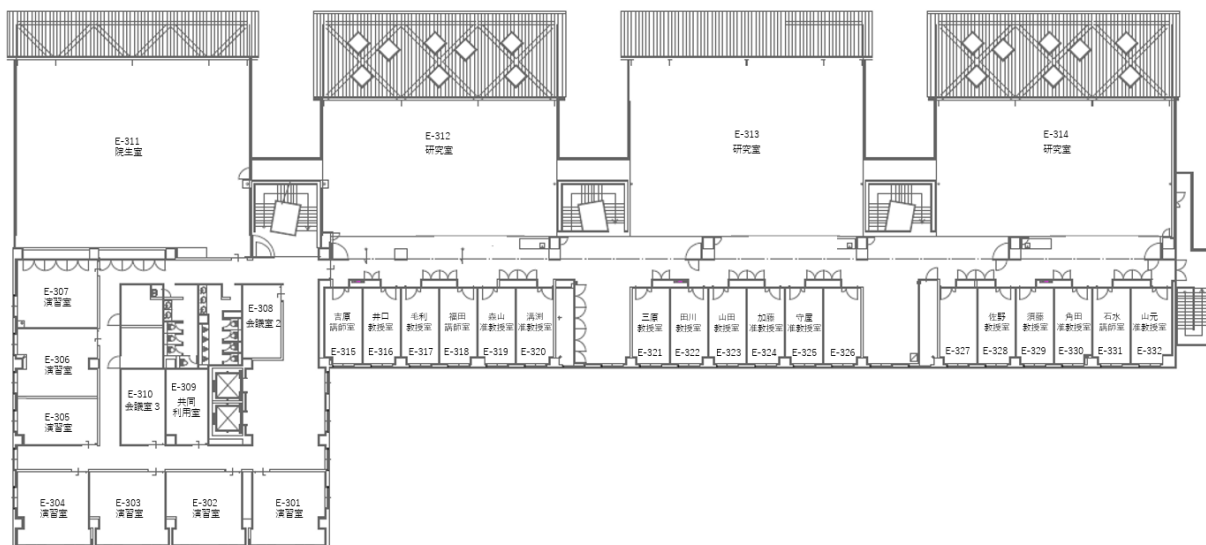
1 階



2 階



3階



4階

